

令和5年度 明石市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 2名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

認知症サポーターの養成等「あかしオレンジサポーター制度」の推進
チームオレンジの構築等に係る取組への連携、協力
認知症カフェ等への取り組みの支援
認知症・若年性認知症家族会への支援
認知症初期集中支援事業の実施
市の認知症施策への協力 など

報告者氏名： 市町村担当者 中谷 希実
地域支援推進員 川床 由季・木ノ下 久子

【明石市】認知症施策全体図

認知症の理解啓発・
地域支援体制の充実

- ・ 認知症あんしんまちづくり条例
- ・ あかしオレンジサポーター制度
- ・ 明石市認知症あんしんネットワーク会議
- ・ 認知症ケアパスの活用

早期の気づき・
早期支援の推進

- ・ 認知症早期支援事業
- ・ 初期集中支援事業
- ・ 精神保健相談
- ・ 認知症相談ダイヤル

権利擁護・
在宅生活の支援

- ・ 認知症あんしんプロジェクト
- ・ 診断費用の完全無料化
- ・ 認知症サポート給付金の支給
- ・ あかしオレンジ手帳とあんしんチケットの配付

若年性認知症施策の
推進

- ・ 若年性認知症ケアパスの作成等、若年性認知症の周知啓発
- ・ 若年性認知症家族会等への支援

地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組

認知症カフェの啓発

市内の認知症カフェは、認知症当事者や家族の参加が少ない。住民や専門職の認知度の低さが要因の1つと考え、市内の認知症カフェ9箇所を訪問し、特徴等を聞き取りをした。聞き取った情報をまとめ、市民や専門職からの相談時に職員が紹介できるようにした。

令和6年度は、オンラインで情報を市民公開し、直接市民等が情報を入手できるように体制を整えていく予定。



効果

それぞれの認知症カフェの特性を職員で共有することができ、住民のニーズに合わせたマッチングを行うために認知症カフェの情報を整理することができた。

課題

- ・適切なタイミングでの情報の更新
- ・市民公開への準備
- ・認知症当事者やご家族にとって居心地の良い場所になっているか当事者との検証
- ・参加者が参加したいと思えるネーミングについて当事者との検討

地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組

地域活動者の発掘

地域活動者の高齢化により、担い手不足という課題があった。地域活動のきっかけとなるような地域活動者の養成講座を市内3箇所で実施。34名養成し、その後交流会を開催した。養成後は、生活支援コーディネーターと連携し認知症カフェやその他居場所等の地域活動と受講生をマッチングをした。

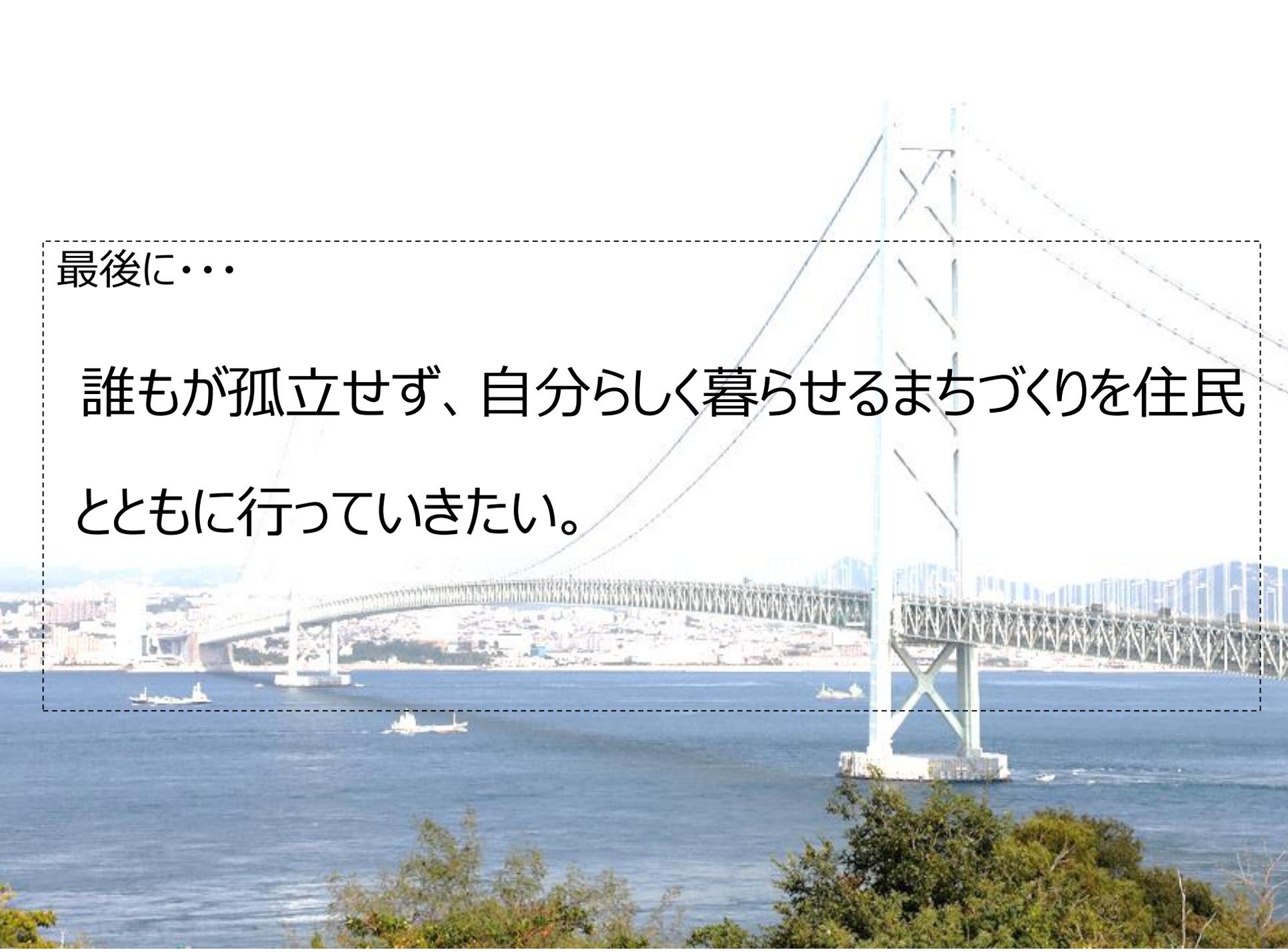


効果

養成講座では、認知症に関わる現代問題や、地域共生社会の重要性や、認知症の方が安心して暮らせるまちづくりについて学べる機会を作った。

課題

- ・若い世代が地域活動に興味を持つきっかけ作り
- ・若い世代への講座の効果的な啓発方法



最後に・・・

誰もが孤立せず、自分らしく暮らせるまちづくりを住民
とともに行っていきたい。